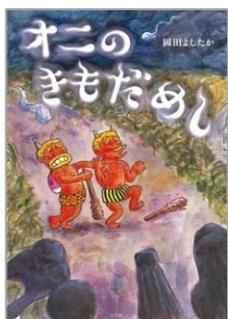




『ねこってこんなふう?』
ブレンダン・ウェンツェル/さく、石津ちひろ/やく
講談社

ながいしっぽをピンと立て、ねこは今日も歩きます。人間から見たねこ、金魚から見たねこ、ネズミから見たねこ、ノミから見たねこ……。同じねこでも、違って見えることが不思議!

動物の見ている世界が、想像力豊かに描かれた科学絵本です。



『オニのきもだめし』
岡田よしたか/さく 小学館

ある晩、2人のオニが暗い夜道を歩いていると、ろくろくびがあらわれて、オニたちを怖がらせます。その後も次から次へとあらわれるおばけたち! 「オニ」「おばけ」「きもだめし」と怖い要素がいっぱいのはずなのに、関西弁で話すオニの掛け合いが小気味よく、最後までおもしろいですよ。



『ごちそうの木』
ジョン・キラカ/作、さくまゆみこ/訳 西村書店

日照りで食べ物なくなった土地に、たくさん実のなる大木がありました。お腹がへった動物たちは、賢いカメにどうしたら実を食べられるかを尋ねにいきます。そこでカメが教えた方法は?

作者自身が生まれ育ったタンザニアの昔話をもとにした絵本です。

図書館おすすめブックリスト

2017年11月発行

編集・発行 砺波市立図書館



ココロふるえる本との出会いで ^{ハート}♥ フル充電!!

No.3 うちどくおすすめリスト

幼児向き



『パンダともだちたいそう』
いりやまさとし/作 講談社

「パンダともだちたいそう はじめ!」ピーッ! ピッ! 笛の音に合わせて、2匹でおにぎり、3匹でめがね、4匹で...? ともだちがどんどん増えて、白と黒のもようがいろんなものに大変身します。

がんばる仲良しパンダの表情が愛らしく、親子で一緒にまねしても楽しい絵本です。ひとりでもできる『パンダなりきりたいそう』もありますよ。



『ひだりみぎ』
新井洋行/作 KADOKAWA

「ひだり」「みぎ」がわからなくても大丈夫！「ひだりてでこねこをなでなでなで、みぎてでおふろをちやぷちやぷあちっ…」と絵本を読み進めながら、繰り返し「ひだり」「みぎ」を体験できる絵本です。遊びながら「ひだり」「みぎ」が自然と身につく、楽しい“ファーストブック”です。



『どででんかぼちゃ』
いわさゆうこ/さく 童心社

「しゅるしゅる どんどん つる どんどん」リズムカルな言葉にのせて、楽しみながら、かぼちゃの成長が見られる絵本です。迫力のある絵にひき込まれ、いろいろな種類のかぼちゃがあることに驚かされます。裏表紙に描かれた実物大の「たね」は、本物とくらべてみたくなりますよ。やさしい新しい発見をみんなに自慢したくなるシリーズです。



『きょうのおやつはなんだろう？』
ふじもとのりこ/作・絵 鈴木出版

きれいな色の、さつまいも、にんじん、とうもろこし…。さあ、どんなおやつができるかな？「ママがおいしくしてくれる」「ママのおやつがだいすき！」のくり返し心地よく、どんなおやつが出来るのかわくわくしてきます。

素朴でやさしいタッチの絵が、毎日のおやつを魅力的に伝えます。



『エスカレーターとエレベーター』
月刊かがくのとも 564号
こわせもりやす
小輪瀬護安/さく 福音館書店

エスカレーターとエレベーターは、どちらも私たちを高い場所まで運んでくれます。デパートに買い物に来たさんたろうくんと一緒に、ひみつを探ってみましょう！それぞれ得意なことがあるようですが、それは何でしょうか。のり方の説明もあるので、エスカレーターにのれないお子さんと一緒に読んでみてください。



『スーパートラック』
スティーヴン・サヴェッジ/さく、金原瑞人/やく 講談社

街は元気な車でいっぱいです。今日もそれぞれの仕事をこなしていきます。しかし、ある日雪がどんどん降り積もって、車たちが動けなくなってしまいました。そんな時、ある車が…。すっきりとした絵と簡潔な文章なので、読み聞かせなら2歳頃から、一人読みなら5歳頃から楽しめます。



『なんにもせんになん』
唯野元弘/文、石川えりこ/絵 鈴木出版

仕事もせず、遊んでばかりいる若者が、あるとき小さな男が入っているつぼを拾いました。若者が毎日遊んでいると、男はどんどん大きくなり家に入れなくなってしまいます。

山口県の昔話をもとにした、日本の民話です。